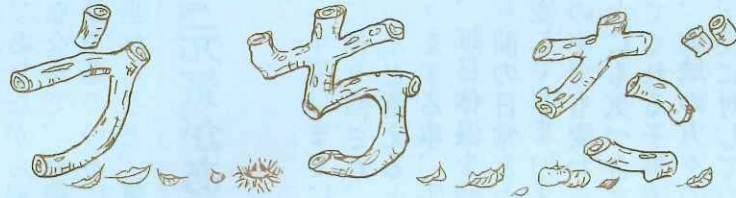


みんなで創ろう
安心した街づくり



発行:内田小学校区小域福祉ネットワーク

『お知らせ』

内田小学校区

小域福祉ネットワーク

会長 小出 完爾

(一) 大地震が発生したら

高齢化が進み、少人数世帯が多くなっている内田地区町会の人々の安心への方策として、町会で決めた取り敢えずの一時の避難場所として、近所を目安に「一時避難場所」が決められています。

そこには、およそ10世帯位を目安に近所の世帯でまとめてあります。そしてその中から連絡役として「連絡員」も決めてあります。

そして、独居高齢世帯と日中高齢世帯には、「大丈夫かい」と訪ねる人も決められております。時々自分の役割を確認しておいて下さい。もしも自分の家族の一時避難場所が判りませんでしたら、町会長に聞いて下さい。

(二) お互いの支え合いで、安全確認を進めましょう。

一時避難場所の世帯グループは、巨大地震の発生時に安否を共有する関係にあります。したがって、日常の暮らしの中でも是非、独居高齢世帯へ様子を見る生活をして下さいますようお願いいたします。

小域福祉ネットワーク

活動報告

二〇二一年度は新型コロナウイルスの感染への恐怖に晒され、内田小学校区小域福祉ネットワーク活動も

成果らしいものはありませんでした。

福祉活動は、内田地区もそうですが福祉活動のエンジンは、活動する人々の思いを共有する協議など、会議が重要です。このことは奉仕活動に取組む団体などでは要のところであり、内田地区の結果も、ここに由来しているものと思っております。

このような状況にあります。二〇二〇年度の活動について報告します。

〈地域〉

内田地区では「向こう三軒両隣(近所)の仕組み」というテーマの基に(一)大地震の発生時の身の安全への一時避難の方策と、独居・日中高齢世帯の安全確認の推進について

(二)一時避難場所に避難する世帯を一つのグループとして、そのグループを単位に普段の暮らしの中の安全確認を行うことについて

この二つの行動方策は、各町会のみなさんへの周知によって進めているものであります。

なお、南総地区社会福祉協議会でも「向こう三軒両隣の見守り」というテーマで、内田地区の「近所の仕組み」をなぞった形で見守りの実施を進めております。

前述(一)、(二)は「向こう三軒両隣(近所)の仕組み」で、その1点が地震発生時の身の安全の確保策であります。

※町会の皆様の一人一人が自分が自分でこの一時避難場所に行くべきか、判りませんでしたら、町会長に聞いて下さい。
2点が南総地区社協が進めている「向こう三軒両隣の見守り」も「近所」単位に進めるもので、内田地区では一時避難場所の世帯をグループとして、お互い様の見守りを行うものです。進めて下さい。



〈高齢者〉

この部会では茶話会の開催や独居世帯の把握や見守りを行っています。しかし、茶話会は実施できませんでした。

今後は新型コロナウイルスの恐れが薄らぎ止みましたら、開催できるように考えます。



〈子ども(子育て)〉

この部会は、子どもの成長を見守るもので、学校支援として川遊びやザリガニ釣り、昔の子供の遊び方の紹介などを行って来ました。

また直接的な見守りとして、毎木曜日に下校時の見守りを行っておりますが、最近の状況は、保護者による自家用車での迎えが実態で、見守るといふことは無くなっております。

この他、広報として「うちだ」の発行を行っています。

二〇二一年の内田地区は、小学校が閉校され、環境が変わります。地区として、新たな知恵も必要となります。

大事な時期になりました。



内田小学校区小域福祉ネットワーク
会長より報告

地域をPREVIEW

私達が暮らしているこの地域をどう守るか、このことに対しては、町会の美化活動の一貫として昔から行っている道普請や道路側面の草刈など、各町会でやってきており、地域の維持に役立っております。

しかし、内田地区は高齢化が進み少人数世帯も多く、しかも田畑は耕作されている面積をはるかに超えているかと思えるほど荒地も多く、竹藪化も進んでいる。

こんな様子もある中でも、この地域を見ている安全への目は、様々な行動によってその改善に取り組みたいと思っております。

(一) 大蔵団地の穴太衆

大蔵団地は造成から多分40〜50年位は経つのかと思いますが、その様子は、住宅地として十分整った姿であります。

しかし区画空地の中には、大谷石の擁壁の上部を地茅の根によって浮き上がり、落下も見られます。

ここに穴太衆のような方法で浮き気味になった大谷石を積み直し、石の安定に自然石を挟み込む。石と石の縦目地にはセメントで固めている。穴太衆はお二人でしたが、住んでいる団地を守るといふ地域愛を見た気持でした。

(二) 杉林の里道、大風の明日は日常どおり
石川の村道の市道から山を登り富士台に抜ける杉林の市道があり、この道は大風が吹くと道一面に杉の枯葉に被われ足の踏み場もありません。しかし、この枯葉は何日の間にか、きれいになくなっています。

多分貝吹さん達の、その度の働きに由来したものと思えますが、本当に有難いことです。

(3) 結接点を守る

前(2)項のこの市道の石川地区の結接点のところは、藪が道にせまり、ここを刈り込まなければ軽自動車も通貨しにくくなるところを、小坂洋史さんによって刈り整えられ、そのお蔭もあってか、消防自動車も通過できるなど、役立っています。

(4) 安全確保の大仕事

うぐいすラインから石川に行く市道は、大蔵団地から鶴舞へ抜けられることから、里道の様子でありながら利用は多い。そんななかで、道路に被さる木々は藤や蔦のつるにからまったまま垂れるなど、気になっていた

人は少なくなかったと思う。ここに長尺の梯子をかけ、この枝を切り落とすという凄技で改善し、安全を確保するという仕事をされた方が貝瀬さんのお二人です。

この作業は、固唾を飲むようなことで、恐れいります。誰でもできるような仕事ではありませんし危険も伴います。

今日、地域をどう守るか、これぞという方策はありませんが、付近に住む人達の身の丈に付してみ、その後のこととすることも方策であると思います。(小出 完爾)

『元気があれば何でもできる』コロナに負けるな

内田小学校 校長 仁科 俊

今年度はまさにコロナウイルスに振り回され、辛抱の一年であったと言えらると思います。マスクをする事、手指を消毒する事、毎日体温を測る事などが当たり前前の日常となり、世の中が一変してしまいました。しかし、その中でも変わらない事があることにも気づきました。毎日見せてくれる子供達の笑顔や笑い声、地域の方々の温かい声かけや学校に対しての協力など本当に感謝の気持ちで一杯です。まだ終わりの見えないコロナウイルスとの闘いですが、その中でも変わらない大切なものをいくつも見つける事ができ、元気をいただきました。「元気があれば何でもできる」私の大好きなプロレスラーの口癖ですが本当にそうだと思います。内田地区の皆さんと元気を共有しこの困難を乗り越えていければと思っております。

さて、残念ながら内田小学校

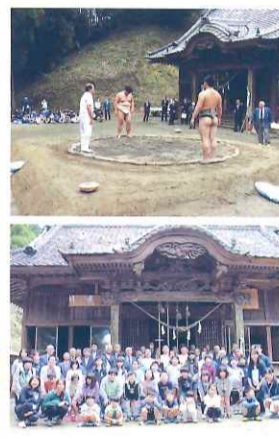
は本年度をもって閉校となります。百三十九年という歴史と伝統を閉じるのは本当に荷が重いのですが、現在の子ども達の事を思いやってくださり閉校に賛成してくださった多くの地域の方々の思いを受け止めながら、閉校に向け進んでいきたいと思っております。牛久小に統合した後にも、今と変わらぬ笑顔が全ての子ども達に、そして地域の皆さんに届けられるようにしていきたいと思っております。では、閉校に向け、行ってきた本年度の取り組み、行事等を紹介していきたいと思っております。

諏訪の子相撲大会

9/27(日)

残念ながら子ども達の取り組みはありませんでしたが、市原市相撲協会のご協力により模範相撲等を子ども達に見せていただく事ができました。長い伝統がある地域行事なので来年度以降もぜひ牛久小と連携をして、

形は変わっても残していけたらと思っております。



全校芋掘り

10/21(水)

内田未来楽校の皆さんのご厚意により、学校横にある内田未来農園で全校児童による芋掘りを行いました。コロナウイルス蔓延により行事が削られる中、子ども達にとって素晴らしい思い出の一つとなった事と思っております。「こんなに大きいのがとれたよ」「楽しい！」など子ども達はどうどろになるのも忘れて我先にと土を掘り起こしていました。



は千葉日報にも載りました。子ども達・関係者の皆さんの素敵な笑顔、笑顔で一杯の一日となりました。

全校遠足

10/30(金)

毎年、年度当初に行っていた

のですが、今年度は休校であったため行けずができていませんでした。「今年は無理だね。最後の年なのに残念だね。」というようなあきらめ気分の中なんと、米沢の森を守る会の方々のご協力により、行う事ができるという事になりました。職員一同感謝感謝です。



牛久小・内田小 合同持久走記録会

12/4(金)

来年度の牛久小との統合を見据えて、合同で持久走記録会を行いました。初めてのコースで子ども達は不安がっていました。が、いざ始まってしまると、どの子どもも一生懸命に最後まで走りきっていました。牛久小の子ども達の応援も嬉しかったようで、走る事が苦手な子どもも頑張っていました。来年度に向けて、子ども達にも職員にもいい行事になったと思っております。

一年間を通して、内田小学校区小域福祉ネットワークの皆様をはじめ、地域・家庭・関係機関の皆様には御支援御協力をいただきましたことと心より感謝申し上げます。まだまだコロナ



ナウイルスの猛威は収まりませんが、きつとこの困難を糧に収束した後は今以上の素晴らしい未来が待っていると思っております。そう信じて内田地区の皆さんと強い絆を築いていければと思っております。

「元気があれば何でもできる」内田小が牛久小と統合の後、地域の未来である子ども達たちの為に牛久小共々御支援・御協力をいただけますようお願い申し上げます。



内田小学校の航空写真撮影日の風景 撮影：小出 昇さん(宿)

※内田小学校の閉校式は、三月二十一日に予定されています。

編集後記

内田小学校が今年の三月をもって閉校となります。内田の児童の学び舎であり内田地区のコミュニティの場がなくなることはさびしいものがあります。

昨年からの猛威をふるっている新型コロナウイルスは、まだまだ衰える気配がありません。この新型コロナウイルス状況下で、今年度の小域福祉ネットワーク事業や活動も休みを余儀なくされました。来年度こそ新型コロナウイルスが収まり事業活動が行われることを願うのみです。(Y)